高知大学の共通教育

高知大学学長　相良　祐輔

はじめに

国立大学の法人化が行われた結果、国公私立を問わず、高等教育の場としての大学改革が一層進められています。特に国立大学法人においては、向こう6年後の中期目標・計画の結果如何で、再度、統廃合の改革の波が起こる可能性が予測されるだけに、すべての国立大学法人が、それぞれに個性豊かな大学創りに懸命であります。

高知大学も、地域の求める人材育成を目標に、学部のあり方を検討することに平行して、共通教育の改善を目指して検討が行われています。

このたび、PIPE LINE編集局から私見でよいからとの強い要請があり、学内で検討してくださっている方々に、お断わりせず、全く個人的な視点からの思いを、述べさせていただきます。

リベラルアーツをどう考えるか

リベラルアーツは人間的教育とか教養教育と理解されているのが一般的だと思います。一方、日本の大学生は、兎に角大学に入学すること、それ自体が目的化しているとか、大学での生活に、目標・目的を見出せずにいるとも言われています。このことは、ある意味で無理からぬことであろうと考えます。社会の多様性とそれに伴うさらに複雑化した価値観が交錯している現状で、高校生の時点で、進路を見定め、志望学部を決定することはかなり困難なことであろうと考えます。

したがって、今の大学では、様々な教科を学び、少しでも実社会での仕組みや人間関係を経験し、実践体験をもとに各人各様に専門性を決定できる仕組みを考えねばならないのではないでしょうか。ここに高知大学の目指す学生主体の実学実現への根拠があると思います。高知大学におけるリベラルアーツの基本は、こうした現実に対応したものを用意する共通教育でなければならないでしょう。

高知大学の共通教育

本学の共通教育は上記のことから、大きく変わることを、求められていると考えるべきではないでしょうか。

文部科学省が公募した「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に本学の「課題探求能力育成型インターンシップの開発」が採用されたことも、その一つの証左であると考えます。

入学2年後から高度な専門性を身に着ける

ためには、ある程度の長期間の実践的経験をつみ、その上で各人が希望する色々な専門学科のファーストステップの授業に参加し、専攻コースを決定する仕組みを、共通教育の柱としては如何でしょうか。そのための時間的工夫には、いわゆる座学は必須最小限に且つ濃密にこなす仕組みを考えねばなりません。その一つの方法として、学習法の技術の習得が考えられます。これは本来、各人各様の問題ではありますが、共通教育の改変に当たっては、学生対応の一つの大切なポイントともいえましょう。例えば学習のためのタイムマネージメント法、資料や情報の収集、調査、整理、レポート作成などの技法などなどを学習してもらうことは、この改革を成功させる必須の条件となります。

望まれる教授法

教員が自分の専門性について、高度な知識技術を持っていることは論を待たないことです。しかし最も望まれることは、学生を指導することへの情熱の熱さであります。リベラルアーツを目的とする共通教育である限り、この一点はゆずることのできない一点であります。人間的教育あるいは教養をつむための教授法は、自分の専門領域だけの授業ではなく、それに関わる一般教養に及んだ授業内容でなくては成り立たないと考えます。

教員が行う授業の意義、価値を地域社会の中でどのように考えるかという姿勢を伝える必要があります。ある意味では、教員自身のこれまでを伝えるということであり、そこにリベラルアーツが見えてくるともいえるのではと思います。

授業評価

学生を、学問、研究にどのように導いてゆくのかについては、学生とのかかわりを最重要課題とする視点から考える必要があります。たとえば、カリキュラムを考えるとき、学生が自主的に学習する授業を用意する、言い換えるなら学習意欲を喚起する実践的コースの用意が必要です。すなわち学生が授業の主人公である姿勢が欠かせないということです。

授業評価は、まことに多くの問題点があり、これが最良というものは無いのかもしれません。しかしこれまでの考えからしますと、学生による授業評価は欠かすことはできません。学生は、教育内容、授業のあり方、学習意欲の喚起といった点から、授業評価者として欠いてはならない人たちであります。さらに同僚間の評価も必要でありましょう。これは、一個人が教育者として完全ではないのですから、お互いが補い合って、より良い改善策を考案できるという点できわめて重要なことであります。授業の質的向上を目指した評価を持っているということは、すなわち最良の評価法は無いにしても、評価することで、高知大学の共通教育は進化し続けることができます。本学の共通教育は、評価することによって、明日への飛躍の準備が、常にあるということになります。

共通教育に期待するもの

高知大学は、地域の必要とする人材育成を、目標の一つに掲げています。

現今の社会構造や教育システムを総合的に捉え、この目標を達成しようと考えるとき、大学院、学部のあり方について本来の課題を洗い出し、抜本的改革が求められていることは、学内外周知のところであります。

学生に、大学で学ぶとはどういうことなのかをまず知ってもらい、自らの実践的体験を踏まえながら専攻を決定するプロセスに加えて、教養をつんでゆく、人間としての感性を磨いてゆくことを意識した共通教育の段階は、きわめて重要なスタートラインであります。こうした目標、目的で運営される共通教育の課程は、高知大学の個性、特徴の一つになると考えます。

おわりに

いま本学での改革を目指しておられる教職員の皆様にも、学生諸子におかれても、ひろく大学改革に関わると思われるアイデアが浮かんできましたら、PIPE LINE 編集局をはじめ企画戦略機構などに、是非お知らせいただきたいと思います。